

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月10日
【四半期会計期間】	第77期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	ネポン株式会社
【英訳名】	NEPON Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼CEO 福田 晴久
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区渋谷一丁目4番2号
【電話番号】	03(3409)3131（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員管理本部長 堀 建二郎
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区渋谷一丁目4番2号
【電話番号】	03(3409)3159
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員管理本部長 堀 建二郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第76期 第2四半期 連結累計期間	第77期 第2四半期 連結累計期間	第76期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	3,208,338	3,615,132	7,992,764
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	83,825	95,115	396,526
親会社株主に帰属する四半期純損失 ( ) 又は親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	67,701	58,468	285,166
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	71,265	55,082	289,215
純資産額 (千円)	2,248,713	2,496,658	2,609,193
総資産額 (千円)	6,624,979	7,151,565	7,220,399
1株当たり四半期純損失金額 ( ) 又は1株当たり当期純利益金額 (円)	70.70	61.06	297.81
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	33.9	34.9	36.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	216,186	216,584	10,141
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	228,135	55,011	274,229
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	216,927	23,790	381,154
現金及び現金同等物の四半期末 (期末) 残高 (千円)	567,942	600,680	459,341

回次	第76期 第2四半期 連結会計期間	第77期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	73.16	92.09

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び連結子会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの5類感染症への移行を契機とした企業活動の活発化等により回復が見られたものの、資源価格の高騰や為替動向及び、地政学リスクの影響等から、先行き不透明な状況が続きました。

このような経営環境の中で、当社グループは『お客様が求める環境作りのために私たち(社員)はお客様の声を起点に農と住の明日を創造する会社を目指します』を事業骨子とし、引き続き販売力の強化や新製品の開発に取り組んでまいりました。

当社グループが主力としております熱機器事業は、持続的な販売活動の積み重ね等により、農用熱機器販売及び農用施設工事受注が伸び前年同期に比べ売上高が増加いたしました。

その結果、総売上高は36億1千5百万円(前年同期比12.7%増)となりました。

損益面においては、売上高は増加しましたが、円安進行による輸入製品のコスト上昇により売上総利益は前年同期比8千1百万円の増加に留まり、中期経営計画にも記載しております社内構造改革費用の支出が上期に先行したこと等で、販売費及び一般管理費が前年同期比8千2百万円増加したことにより、営業損失は9千5百万円(前年同期9千4百万円の営業損失)、経常損失は9千5百万円(前年同期8千3百万円の経常損失)となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は5千8百万円(前年同期6千7百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント別の業績は、以下のとおりとなります。

##### [熱機器事業]

当社グループが主力としております熱機器事業の農用機器は、持続的な販売活動の積み重ね等により、農用熱機器販売及び農用施設工事受注が伸び、熱機器事業の売上高は33億5千9百万円(前年同期比15.3%増)となりました。

##### [衛生機器事業]

衛生機器事業においては、簡易水洗便器市場の縮小により売上高は2億2千6百万円(前年同期比10.0%減)となりました。

##### [その他事業]

その他事業におきましては、農産物販売の減少等により売上高は2千8百万円(前年同期比31.1%減)となりました。

##### 財政状態

##### [資産]

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ、現金及び預金が1億4千1百万円、棚卸資産が9千万円増加しましたが、売上債権が3億4千3百万円減少したこと等により、1億1百万円の減少となりました。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ、有形固定資産が1千9百万円減少しましたが、投資その他の資産が4千万円増加したこと等により、3千2百万円の増加となりました。

##### [負債]

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ、短期借入金が1億5千5百万円増加したこと等により、1億5千4百万円の増加となりました。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ、長期借入金が1億2千1百万円減少したこと等により1億1千万円の減少となりました。

【純資産】

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ、親会社株主に帰属する四半期純損失を5千8百万円計上したこと等により、1億1千2百万円の減少となりました。

以上の結果、前連結会計年度末に比べ、総資産は6千8百万円減少し、71億5千1百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、2億1千6百万円のプラス(前年同期は2億1千6百万円のプラス)となりました。

その主な要因は、売上債権の減少3億4千5百万円、棚卸資産の増加8千8百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、5千5百万円のマイナス(前年同期は2億2千8百万円のマイナス)となりました。

その主な要因は、有形及び無形固定資産の取得による支出5千2百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、2千3百万円のマイナス(前年同期は2億1千6百万円のプラス)となりました。

その主な要因は、長期借入金の返済による支出2億1千6百万円、短期借入れによる収入2億円であります。

この結果、現金及び現金同等物の当四半期連結累計期間末残高は、6億円となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当社グループの研究開発活動は当社が行っております。

当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の総額は、3億5千8百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,400,000
計	2,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	962,948	962,948	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	962,948	962,948	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	-	962,948	-	601,424	-	116,003

(5)【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数に 対する所有株式数 の割合(%)
佐藤商事株式会社	東京都千代田区丸の内1-8-1丸の内トラ スタワーN館16階	120	12.53
ネボン共栄会	神奈川県厚木市上古沢411	73	7.67
福田 晴久	神奈川県横浜市青葉区	64	6.72
福田 公一	神奈川県横浜市青葉区	52	5.47
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	47	4.97
ユニテック株式会社	愛媛県四国中央市川之江町4087-24	31	3.26
日興通信株式会社	東京都世田谷区桜丘1-2-22	24	2.56
鈴木 愛子	東京都渋谷区	23	2.49
株式会社高原興産	東京都港区白金台3-2-34	23	2.46
東京ソフト株式会社	東京都港区白金台3-2-34	22	2.35
計	-	483	50.49

(注) 上記大株主の福田公一氏は2023年8月20日逝去されましたが、2023年9月30日現在において、  
相続手続きが未了のため、同日現在の株主名簿に基づき記載しております。

( 6 ) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 953,300	9,533	-
単元未満株式	普通株式 4,248	-	-
発行済株式総数	962,948	-	-
総株主の議決権	-	9,533	-

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式7株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ネボン株式会社	東京都渋谷区渋谷 1 - 4 - 2	5,400	-	5,400	0.56
計	-	5,400	-	5,400	0.56

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清明監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	532,341	673,680
受取手形及び売掛金	2,440,049	2,275,297
電子記録債権	591,070	412,543
商品及び製品	460,102	521,494
仕掛品	186,366	197,749
原材料及び貯蔵品	1,014,675	1,031,981
その他	57,217	67,762
貸倒引当金	301	288
流動資産合計	5,281,520	5,180,220
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	687,416	665,550
その他(純額)	486,690	488,837
有形固定資産合計	1,174,107	1,154,387
無形固定資産		
投資その他の資産	107,754	119,735
その他	657,330	697,521
貸倒引当金	313	300
投資その他の資産合計	657,017	697,221
固定資産合計	1,938,878	1,971,344
資産合計	7,220,399	7,151,565
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	541,053	494,075
電子記録債務	649,860	702,324
短期借入金	1,441,298	1,596,592
未払法人税等	78,737	13,255
賞与引当金	96,282	99,255
製品保証引当金	2,172	2,590
その他	182,887	238,518
流動負債合計	2,992,292	3,146,612
固定負債		
長期借入金	694,560	573,036
役員退職慰労引当金	42,964	40,729
退職給付に係る負債	849,777	862,956
資産除去債務	14,080	14,080
製品保証引当金	6,521	6,480
その他	11,011	11,011
固定負債合計	1,618,913	1,508,293
負債合計	4,611,206	4,654,906
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	601,424	601,424
資本剰余金	150,601	150,601
利益剰余金	1,825,919	1,709,999
自己株式	8,980	8,980
株主資本合計	2,568,964	2,453,043
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,968	17,224
為替換算調整勘定	8,842	9,574
退職給付に係る調整累計額	41,103	35,965
その他の包括利益累計額合計	40,229	43,615
純資産合計	2,609,193	2,496,658
負債純資産合計	7,220,399	7,151,565

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 千円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)
売上高	3,208,338	3,615,132
売上原価	2,047,964	2,372,776
売上総利益	1,160,374	1,242,356
販売費及び一般管理費	1,255,150	1,337,562
営業損失 ( )	94,776	95,206
営業外収益		
受取利息	10	46
受取配当金	1,423	1,404
補助金収入	6,381	19,509
その他	13,888	8,983
営業外収益合計	21,705	29,943
営業外費用		
支払利息	8,453	9,350
支払手数料	-	20,000
その他	2,300	501
営業外費用合計	10,753	29,851
経常損失 ( )	83,825	95,115
特別利益		
固定資産売却益	-	449
受取保険金	4,388	11,972
特別利益合計	4,388	12,422
特別損失		
固定資産除却損	833	545
支払補償費	4,592	-
特別損失合計	5,425	545
税金等調整前四半期純損失 ( )	84,862	83,238
法人税、住民税及び事業税	2,369	3,030
法人税等調整額	19,530	27,800
法人税等合計	17,160	24,770
四半期純損失 ( )	67,701	58,468
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失 ( )	67,701	58,468

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失( )	67,701	58,468
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	9,255
為替換算調整勘定	1,542	732
退職給付に係る調整額	5,099	5,137
その他の包括利益合計	3,563	3,385
四半期包括利益	71,265	55,082
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	71,265	55,082
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	84,862	83,238
減価償却費	87,602	85,236
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	25,271	8,098
退職給付に係る資産の増減額( は増加)	580	64
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	2,015	2,235
賞与引当金の増減額( は減少)	2,539	2,973
貸倒引当金の増減額( は減少)	73	25
製品保証引当金の増減額( は減少)	2,062	377
受取利息及び受取配当金	1,433	1,450
受取地代家賃	4,200	4,200
支払利息	8,453	9,350
固定資産売却損益( は益)	-	449
会員権売却損益( は益)	-	487
固定資産除却損	833	545
支払補償費	4,592	-
受取保険金	4,388	11,972
売上債権の増減額( は増加)	697,491	345,833
棚卸資産の増減額( は増加)	370,713	88,953
仕入債務の増減額( は減少)	12,687	1,652
その他	76,365	49,001
小計	242,493	310,121
利息及び配当金の受取額	1,433	1,450
利息の支払額	8,462	9,350
法人税等の支払額又は還付額( は支払)	19,074	97,609
保険金の受取額	4,388	11,972
補償金の支払額	4,592	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	216,186	216,584
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	215,344	43,207
有形固定資産の売却による収入	-	450
無形固定資産の取得による支出	12,000	9,552
その他	791	2,702
投資活動によるキャッシュ・フロー	228,135	55,011
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	100,000	200,000
短期借入金の返済による支出	100,000	-
長期借入れによる収入	500,000	50,000
長期借入金の返済による支出	246,283	216,230
配当金の支払額	36,217	56,982
リース債務の返済による支出	571	577
財務活動によるキャッシュ・フロー	216,927	23,790
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,642	3,556
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	208,620	141,339
現金及び現金同等物の期首残高	359,322	459,341
現金及び現金同等物の四半期末残高	567,942	600,680

## 【注記事項】

## (四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務

四半期連結会計期間末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形	- 千円	5,192千円
電子記録債権	- "	21,464 "
支払手形	- "	17,098 "
電子記録債務	- "	104,679 "
流動負債のその他(設備関係電子記録債務)	- "	1,210 "

## (四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
従業員給料及び手当	375,742千円	379,755千円
賞与引当金繰入額	51,710 "	55,882 "
退職給付費用	19,266 "	17,210 "
役員退職慰労引当金繰入額	2,015 "	2,181 "
研究開発費	297,430 "	298,288 "

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	640,942千円	673,680千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	73,000 "	73,000 "
現金及び現金同等物	567,942 "	600,680 "

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	36,386千円	38円	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	57,452千円	60円	2023年3月31日	2023年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	熱機器	衛生機器	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,914,994	252,231	3,167,226	41,112	3,208,338
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,914,994	252,231	3,167,226	41,112	3,208,338
セグメント利益又は損失( )	436,355	62,690	499,046	6,832	492,213

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農産物販売及び搬送機器サービス等が含まれております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	499,046
「その他」の区分の損失( )	6,832
全社費用(注)	586,990
四半期連結損益計算書の営業損失( )	94,776

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	熱機器	衛生機器	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,359,877	226,935	3,586,812	28,320	3,615,132
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,359,877	226,935	3,586,812	28,320	3,615,132
セグメント利益又は損失( )	554,635	59,417	614,052	31,994	582,058

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農産物販売及び搬送機器サービス等が含まれております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	614,052
「その他」の区分の損失( )	31,994
全社費用(注)	677,265
四半期連結損益計算書の営業損失( )	95,206

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(有価証券関係)

有価証券は、企業集団の運営において重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	熱機器	衛生機器	計		
商品及び製品売上高	1,390,764	210,582	1,601,346	39,188	1,640,534
工事売上高	764,197	5,175	769,372	-	769,372
サービス売上高	760,032	36,474	796,507	1,923	798,431
顧客との契約から生じる収益	2,914,994	252,231	3,167,226	41,112	3,208,338
外部顧客への売上高	2,914,994	252,231	3,167,226	41,112	3,208,338

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農産物販売及び搬送機器サービス等が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	熱機器	衛生機器	計		
商品及び製品売上高	1,615,117	193,370	1,808,488	27,795	1,836,283
工事売上高	846,710	-	846,710	-	846,710
サービス売上高	898,049	33,564	931,614	524	932,138
顧客との契約から生じる収益	3,359,877	226,935	3,586,812	28,320	3,615,132
外部顧客への売上高	3,359,877	226,935	3,586,812	28,320	3,615,132

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農産物販売及び搬送機器サービス等が含まれております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額( )	70円70銭	61円06銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額( ) (千円)	67,701	58,468
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	67,701	58,468
普通株式の期中平均株式数(千株)	957	957

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。



(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月10日

ネポン株式会社  
取締役会 御中

清明監査法人  
東京都千代田区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 島貫 幸治

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 加賀 聡

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているネポン株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ネポン株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。